

平成21年度 学校評価年間まとめ

□今年度短期経営目標の重点3項目について、教職員校内研修会、学校評価委員会等で検討を行いました。

1. 授業力の向上

○評価指標	授業に対して満足である生徒の割合が	75%以上
○中間評価	授業に対して満足である生徒の割合が	72%
○年間評価	授業に対して満足である生徒の割合が	72%

《分析》

- アンケートの項目では、9教科全てに対する満足度を答えた生徒の割合であり、苦手な教科がある生徒の満足度が低いところに偏る傾向が考えられる。
- 生徒がどこに不満を感じているのか、詳細に分析する必要がある。

《課題・成果》

- 生徒が満足感を得られるために、「わかる授業」をテーマに工夫改善していく必要がある。また、生徒が苦手意識を持たず、楽しく授業に参加できる雰囲気作り等も工夫する必要がある。
- 授業内容を理解できないために、意欲・満足度が低いことも考えられる。生徒の基礎学力向上に向けての取り組みも必要である。
- 基礎学力向上に向けて、試験前に「質問日」を設けたり、1学年の「自主学習(がんばり勉強)」や、3学年の「終学活での小テスト」、「放課後学習」など、教員の工夫が自発的に生まれてきている。
- 教員間で実際の授業での工夫改善を具体的にどうやっているのか、また、行き詰まっている点はないのか、良い指導法はないかといったことをお互いに話し合ったりすることを、日常的に行う必要がある。
- 日頃から校務等が忙しく気持ちの余裕がない中で、その日の授業の準備が精一杯で授業改善の研究まで行けなかったり、過去の経験値に頼りすぎて、授業がマンネリ化の傾向が強くなっていることは事実としてゆがめない。気持ちの上での余裕やそのための具体的な時間創出を行い、「忙しい」という言葉で逃げないようにする必要がある。
- 授業交流を推進するためにははじめた授業交流予定票と簡易授業案を全員が提出するようにさらに啓発していく努力が必要である。
- 各授業における目標を明確にする必要がある。
- 授業交流で、意識的に自らからアピールし他の先生に参観してもらうスタイルが軌道に乗つつある。これを更に発展させ、授業後に何らかの意見交流ができるようにしていく必要がある。

《取り組み》

- イ 授業交流予定票、簡易授業案を全員が提出し、全員に配布する。
- ロ 授業の目的と評価を明確にするために、授業開始と終了時に必ず、生徒に「本時のねらいと評価方法」について知らせることを徹底する。
- ハ 基礎学力向上に向けてはじまった取り組みを大切に、全員でサポートできるシステムを構築していく。

2. 家庭学習の習慣化

○評価指標	週5日以上、家庭学習を行う生徒の割合が	75%以上
○中間評価	週5日以上、家庭学習を行う生徒の割合が	47%
○年間評価	週5日以上、家庭学習を行う生徒の割合が	52%

《分析》

- 月～金曜日の5日間を基本とし、毎日家庭学習を行うことを期待しているが目標には達していない。
- 宿題等の家庭学習が習慣化していない。さらに、その状況を教員が把握しきれておらず生徒の「やる気」につながる適切な評価になっていないと考えられる。

《課題・成果》

- 宿題の量や内容について、各教科内また各教科間の調整ができていない。生徒の宿題の量に偏りが生じないようにする必要がある。
- 個々の生徒の実態に適し、学習状況に応じた課題提示が必要である。
- 家庭学習の計画表づくりや内容点検から適切なアドバイスへとつなげていくプロセスを家庭の協力を一層得ながら進めていく必要がある。
- 連絡帳(ベスト)を活用して家庭学習時間を記入させ、担任が日々の家庭学習の状況を把握する取り組みが全学年で、意識できはじめた。
- いくつかの教科で宿題をほぼ毎日出し、習慣化を行っている。
- 全校朝会や集会等を利用して、生徒へ家庭学習時間の記入を呼びかけている。

《取り組み》

- イ 提出物を徹底させる。
- ロ 連絡帳(ベスト)への家庭学習時間の記入と提出の指導を全学年で統一して行うことを継続して実践し、適切なアドバイスを生徒、保護者に行う。
- ハ 「家庭学習ノート」の提出を全校で取り組む。

3. ルール・マナーを守る生徒の育成

○評価指標	交通ルールやマナーを毎日守って登下校したと思う生徒の割合が	90%以上
○中間評価	交通ルールやマナーを毎日守って登下校したと思う生徒の割合が	95%
○年間評価	交通ルールやマナーを毎日守って登下校したと思う生徒の割合が	94%

《分析》

- 交通ルール等については、95%の生徒が「守っている」、「だいたい守っている」と答えているが、登下校中の実態からも生徒の『交通ルール』に対する認識のずれがあると考えられる。
- 「学校のきまりを守って行動していますか」は、94%の生徒が、また、「ゴミの分別処理はできましたか」は、88%が「はい」と答えている。

《課題・成果》

- 学校生活をおくるうえでのルールやマナーについて習慣化させる必要がある。
- 生徒自身は守っている意識だが、周囲からするとまだ“甘さ”がある。
- 生徒指導上の問題としてだけでなく、キャリア教育の一環としての「社会人の良識」としての指導内容も合わせて行う必要がある。

《取り組み》

- イ PTAと協力してあいさつ運動を継続して行う。
- ロ 生徒に交通ルールやマナーの内容について具体的に知らせる。
- ハ 登下校指導や地域巡視計画を周知し確実に実践する。その都度、生徒の状況を把握し情報を共有して次の指導に活かす。
- ニ ルールの徹底を学年毎でなく、全教員の意識統一の中で、重点的に指導していく。
 - 当面、
 - ①登下校のマナー(路側帯内の歩行と決められた通学路を使用させる。)を徹底する。
 - ②身だしなみ(シャツ出し、ベルトゆるみ、靴下などの服装面)の指導に徹底する。
 - ③相手を見て気持ちよくあいさつができるようにさせる。